

『万全の対策を』

私は、2年次の2学期あたりから、志望先を決定しました。志望先を決め、ゴールを定めることで、自分が今何をすべきかが見えてくるので、進路志望決定は早ければ早いほどいいと思います。志望先が外国語学部だったこともあり、英語の勉強により力を入れました。大学によって、どの教科の配点が高いかなども違って来るので、入試形態についても調べ、早めの対策をすることをすすめます。総合型選抜で受験しようと考え出したのは3年次の6月です。チャンスは多ければ多いほどいいと思い、この入試形態を選びました。一次試験は小論文、二次試験は面接と集団討論でした。国際系のニュースに目を通し、知識を蓄えるとともに、小論文を何度も書き、実戦的な力を身に付けました。集団討論の練習は、同じように集団討論が入試にある友達と行いました。そして、試験1週間前には、社会科の先生方にも入ってもらい、練習をしました。このように合格するために万全の準備を整え、試験に臨みました。努力すればした分だけ自信につながると思います。

北九州市立大学法学部政策科学科(学校推薦型選抜 公募制)

ハンドメイド部・茶華道部

『合格までの道のり』

私が北九州市立大学法学部を志望した時期は高校1年次でした。この大学に合格するために、1年次の時から放課後に居残り学習をするなど、勉強をする習慣を付けていました。しかし、3年次になっても成績が伸び悩んでおり、周囲の方から「志望する学部を変えた方が良い」というアドバイスを受けることもありました。ですが、私には「この学部に進学したい」という強い思いがあったため、学部を変えず、自分の意志を貫き通しました。私の入試科目は小論文で、3年次の夏から本格的に取り組みました。最初は、新書や新聞を読んだり、関連するYouTubeを見たりして、小論文を書くための幅広い知識を身に付けました。それから過去20年分の問題を解きました。この過去問を解く上で心がけたことは、論理性のある客観的な文章を書くことです。そのために、自分の解いた小論文を学校の先生方や友人、家族に読んでもらい、様々な意見を取り入れることで誰もが納得できる文章を書けるように努めました。この練習を積み重ねていくうちに、初見の人が読んでも内容が分かりやすい文章を書けるようになりました。また、小論文の題材について友人とディスカッションすることによって、その題材をより深く理解することができたと思います。自分の意見を書く練習だけではなく、自分とは異なる多様な意見にも耳を傾けることが大切だと感じました。私が今回の受験を成功させることができた大きな要因は、強い意志を持ち続けたことだと思います。受験の倍率は前年に比べると約2倍上がっており、心が折れそうになることもありましたが、「この学部に進学して夢を叶えたい」という意志が、私にとってモチベーションとなり、最後まで諦めずに取り組むことができました。日々取り組んできたことが、本番の自信にもつながったと思うので、自分の意志を貫くことは後悔しないために大切だと思います。

北九州市立大学文学部比較文化学科(一般選抜)
福岡大学人文学部日本語日本文学科(一般選抜)

バスケットボール部

『努力することの大切さ』

私は、大学共通テストを受験する前に、北九州市立大学の学校推薦型選抜を受験し、結果は不合格でした。それまで、学校でも家でもずっと勉強していて、親や先生方も応援してくれていたのも、とても悔しかったです。それに加え、共通テストで思うような点数が出せず、合格は厳しいだろうと思い、一般受験は諦めようと考えていました。しかし、担任の先生と年次主任の先生に「受けるだけ受けてみな」と背中を押されて受験を決意しました。

どんどん合格していく周りを見て、とても焦りを感じていました。また、国公立大学を受験する生徒自体が少なく、同じ学部を志望する人もいなかった為、一人で勉強する時間が長く、寂しさを感じることもありました。しかし、いつも周りの友達が「絶対大丈夫!頑張れ!」と声を掛けてくれたり、お菓子やお守りといった差し入れをくれたりして、とても支えられ、勇気づけられました。

そして、私が一番感謝しているのは、二次試験に向けて教科指導をしてくれた担任の先生と年次主任の先生です。平日だけではなく休日も熱心に指導してくれました。厳しい言葉を掛けられることもありましたが、そのおかげで頑張ろうと思えました。合格の報告に行った際も、とても喜んでくれて本当に嬉しかったし、頑張ってた良かったと思えました。

私が二次試験に向けて行った勉強法は以下の通りです。二次試験は英語と国語の2教科でした。

まず、英語と国語の両方に共通するのは、過去問をできるだけ多く解くことと、語彙を増やすことです。英語の問題では、長文の空欄補充や和訳する問題が出題されていたので、隙間時間に単語帳を開いたり、文章中の分からなかった単語を辞書で調べたりして1つでも多くの単語を覚えようという気持ちで勉強していました。国語の問題では、指定された語句を使って短文を作る問題や、語句の意味を問われる問題があったので、分からない語句が出たら、その都度辞書を使って調べたり、一問一答形式の問題集(四字熟語や故事成語のもの)を使ったりして、語彙を増やしていきました。それに加え、英語は英作文の問題が、国語では漢字が出題されていたので、英作文はとにかく書くこと、漢字はドリルをたくさん解きました。私は私立大学も受験していたので、北九州市立大学の二次試験に向けて集中的に取り組めたのは、2週間程度でした。そのため、とても焦っていて、苦しくてやめたいと思ったこともありましたが、先生方の指導に伝えることができ、喜んでもらえて、今は本当に頑張ってた良かったと思っています。

もし、今、自分の実力と志望校との差が大きくて、受験をやめようか迷っている人がいたら、とりあえず自分が今できる最善を尽くして、とにかく挑戦してみてください。頑張ってください!!

『後輩へのアドバイス』

私は、入試の中で最も実施が早い総合型選抜を受験し、志望校の福岡大学に合格することができました。ただ、私一人の力だけでは絶対合格できていなかったなと感じています。

硬式野球部を引退したのが8月、総合型選抜の一次試験が9月下旬と、約1ヶ月しか時間がないという状況で、私はとても焦りました。部活動をしている時から、受験日や科目を調べ、勉強をしておくべきだったと、後悔もしました。後輩のみなさんは、できるだけ早く志望校について調べ、勉強をしておいた方が、後々楽だと思います。

また、合格するためには、自分のやる気が一番大切だと感じました。先生方にまかせるのではなく、あくまで志望校合格に向けて真剣に取り組むということを前提条件にサポートしてもらってください。そのためにも、日頃の授業態度や生活態度をきちんとしておくべきです。日頃の態度が悪いのに、自分の進路に関わる時だけ態度を良くしても先生方は本気で指導したいと思うことができないと思います。授業中や生活態度が悪い人は今すぐ改めて、先生方の信頼を得るようにしてください。そうすれば、先生方もその姿勢に応えてくださると思います。

『多くの人に支えられ』

私は本当に多くの人に支えられて合格をつかむことができました。

受験のための面接指導、日々の授業はもちろん、バドミントン部の部長、体育副委員長としても多くの人に支えられました。部活動では、顧問の先生にバドミントンのことだけでなく、礼儀などについても多くのことを教えていただきました。体育副委員長としては、多くの先生方に指示の出し方や全体をまとめる方法を教えていただきました。これらのことを活かして面接でもハキハキと自分が頑張ってきたことや自己PRなどを話すことができました。実際に面接をして、日々の学校生活や授業態度、部活動、生徒会活動などがとても大切だということを改めて感じました。日頃から自分の目標とすることを決め、それに向かって頑張っていくことで、面接の時にも役に立ちますが、自分の成長にもつながります。

とにかく、まずはあたりまえのことはきちんとする、凡事徹底からはじめ、それから自分の目標を決めて取り組んでみてください。また、周りの人への感謝を忘れず、自分の進路に向かって頑張ってください。

『最後まであきらめない』

勉強にはとても時間を費やした。推薦入試での一度目の試験のときは、放課後には7時まで残って勉強する、大学入試の過去問を何度も解いて、先生方に解説してもらうなどを行った。福岡大学を学校推薦型選抜で受験することは、3年次になって決まったことだった。それまでは漠然とした未来像だけで具体的な大学選びなどを行っていなかった。福岡大学の推薦入試にはとても自信がなかったのは明らかに自分でもわかっていたので、3割はやる気が出ていなかった。いざ試験を受けてみて、自分の実力不足をととても理解した。同じ入試を受けた人は合格していて、自分だけが不合格でとても心細くなった。

それからは、推薦入試で合格した人とまだ決まっていない人とでは、気の持ちようが全く変わってきて、不合格の人にはとてもつらい時期だと思う。周りは遊んでいるのに、自分だけ取り残されて勉強するしかなかったのが、とてもつらかった。もう福岡大学の一般選抜はあきらめて、新しい大学探しに努めた。別府大学の合格までは、自習がとても力になった気がする。何度も何度も読み込むことができたからだ。理解していると思っても何度も重ねて覚えることをした方がいいと思う。

推薦入試で決まった人も、合格するまでにととても努力していることは分かっているけれど、一般選抜で合格を勝ち取ったときの嬉しさ、喜びは推薦入試以上にあると思う。もちろん、学校推薦型選抜で決まった人たちも自分の合格をととても祝ってくれたので嬉しかった。人生で一番勉強に費やした5ヶ月だったと思う。